

第4章 新市まちづくり計画の基本方針

(1)基本理念

世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市

“霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する新都市”



新市は、陸・海・空の交流ネットワークの地域特性を最大限に活かし、霧島山麓の豊かな自然地域、農業と観光が盛んで歴史的資産のある田園地域、錦江湾沿いの平地部にある先端技術型産業や住宅地が集積した都市地域で構成されています。

現代社会は、人・もの・情報の流れが一段と多様化し、増大する中で、そのネットワーク機能や受発信機能の確保充実が地域力向上の鍵となっています。

このようなことから、新市では、鹿児島空港を拠点として世界を視野に入れた新しい都市づくりを進めるとともに、人と自然・歴史・文化などさまざまなふれあいのある調和のとれた田園文化都市と、産業がバランス良く配置された多機能都市の形成を図りながら、快適で愛着の持てる安心して暮らせるまちづくりを進める方針のもと、「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」をまちづくりの基本理念とします。また、霧島山系から錦江湾までの新市内にある多彩なポテンシャル（潜在力）が、未来に向かって進化しながら、新しい地域力となり、躍動する都市づくりを進めるために、“霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する新都市”を基本理念のサブタイトルとします。

※ 「地域力」とは、地域の自然や歴史文化というような財産と特性を踏まえた地力（本来持っている実力）のこと。

※ 「進化」とは、地域の潜在力が長い年月の間に変化し、さらに発展していくこと。

この基本理念には、次のような視点が含まれています。

● 「世界にひらく」ふれあい都市づくりを目指す

鹿児島空港を拠点として世界を視野に入れた新しい都市づくりを進めるとともに、国際交流を積極的に進める都市づくりを目指します。

● 「人と自然・歴史・文化」がふれあう都市づくりを目指す

住む人と訪れる人が、自然・歴史・文化などにふれあうことのできる調和のとれた田園文化都市づくりと、産業がバランス良く配置された多機能都市づくりを目指します。

● 「霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する」新都市づくりを目指す

新市は、霧島山系から錦江湾まで含んだ地域です。

※ 「鼓動」とは、地域内の多彩なポテンシャル（潜在力）を意味します。

※ 「時空を超える」とは、潜在力が、時間と空間を超えていくことを意味します。



(2) 将来像

人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市の創造

基本理念に掲げた「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」をどのような姿に創り上げていくか、その目標を定めたものが「新市の将来像」です。

新市のまちづくりは、南九州の陸・海・空の交流拠点都市として、世界を視野に入れた、新市の持つ豊かな自然、観光資源、歴史的資産、産業など多彩な地域特性を最大限に活かしたものとし、“人”を主役にとらえ、住民一人ひとりが、あるいは地域コミュニティがお互いの信頼関係を築き、住民と行政が協働・連携することにより、自立性の高いまちづくりを進めていきます。

さらに、多種多様な機能が調和した新しい都市の創造を目指していきます。

このような考え方を基本にし、「人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市の創造」を新市が目指すべき将来像とします。

新市の将来像を実現するために、次のような7つ（7市町、7分野）のキーワード（躍、癒、夢、支、交、協、絆）がふれあう都市づくりを将来像の柱として設定します。

※ 「コミュニティ」とは、一般的に、人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、及びその人々の集団のことをいいます。地域社会。共同体。新市における地域コミュニティとは、自治会組織、ボランティア団体、NPO（民間非営利団体）などを指しています。

1 活力ある都市づくり（社会基盤）

快適で魅力的な都市機能の充実と安全で活力ある都市づくり

新市は、陸・海・空の交通体系が整った南九州の交通の要衝であり、多種多様な産業が盛んな地域です。これらの特性を活かして、快適な多機能都市を創造していくと同時に、地域内外とのふれあいを活性化させ、県央地域の持つ個性と魅力を九州から日本全国へ、世界へ発信する情報ネットワークの整備を行い、災害に強い安全で活力ある都市づくりを目指します。

“新市が躍動するイメージにします。”

2 自然にやさしい都市づくり（生活環境）

自然と共生し、誰もが安心して住める都市づくり

新市は、我が国で最初に国立公園に指定された霧島屋久国立公園を有し、風光明媚な自然に恵まれており、その自然を背景にして地域の歴史や文化、伝統といった風土に根ざした生活が培われています。この貴重で実り豊かな自然をいつまでも体感できるよう、自然にやさしい都市づくりを目指します。また、防災・防犯体制の強化に努めるとともに、定住促進を図り、誰もが安心して住める都市づくりを目指します。

“気持ちや心が休まる癒しをイメージします。”

3 育み磨きあう都市づくり（教育文化）

育まれてきた教育文化の継承と生涯学習、青少年の健全育成を推進する都市づくり

新市は、多くの歴史的文化的遺跡と伝統に支えられた優れた文化を保有しています。これらの文化遺産等の継承と地域の豊かな自然を活かした新しい文化を創造するとともに、地域に根ざした特色ある学校教育活動やすべての世代が参加できる息の長い生涯学習を推進します。併せて、青少年の健全育成を推進し、人と人との絆を深める、育み磨きあう都市づくりを目指します。

“すべての人が将来に夢を持てるイメージにします。”

4 たすけあい支えあう都市づくり（保健福祉）

すべての人が安心して暮らし、共にたすけあい支えあう都市づくり

新市は、住民が安心していきいきと暮らすために、地域福祉等の推進と救急診療体制の充実、また心身ともに健康な生活が送られるように生活習慣病の予防や早期発見、早期治療に向けた住民の健康づくりの支援体制を進めます。又、安心して子供を産み育て、心豊かに子育てするために子育て環境の整備を進め、住民・行政・地域が一体となった、たすけあい支えあう都市づくりを目指します。

“すべての人が互いに支えあうイメージにします。”

5 産業ふれあいの都市づくり（産業経済）

多種多様な産業が調和した産業ふれあいの都市づくり

新市は、日本でも類のない自然に恵まれた地域であり、良質な温泉を有する、観光資源の宝庫です。同時に、茶、園芸、畜産などの農林水産業、先端技術型産業を中心とする民間企業や魅力ある商店等が存在しています。この地域観光資源を有効に活用しながら、観光と農林水産業・商工業が調和した、ふれあいをテーマとした産業ふれあいの都市づくりを目指します。

“人や産業のふれあい交流をイメージします。”

6 住民参画の都市づくり（コミュニティ）

人権を尊重しあい、住民が主体的に参画し、行政と協働する都市づくり

新市は、それぞれの地域の実情に応じた施策の展開に対する意向表明の方法として、地域審議会を置くこととし、都市づくりの担い手である住民が主体的に関わり、積極的に役割をはたしていく住民参画のまちづくりを推進し、住民と行政が協働する都市づくりを目指します。

また、国際化に柔軟に対応できる人材育成や地域のリーダーとなる人材発掘を促進し、空港を拠点にして国際交流を積極的に推進する都市づくりを目指します。

さらには、お互いが人権を尊重しあい、思いやりのある人にやさしいまちづくりを目指すとともに、男女共同参画社会の形成を促進します。

“住民と行政の協働をイメージします。”

7 健全な行財政組織の都市づくり（行財政）

健全で自立した行財政運営と地域拠点（旧市町）の連携による都市づくり

新市は、住民に開かれた行政の推進や質の高い行政サービスの提供を積極的に行いながら、地方分権時代に対応可能な健全で自立した行財政運営に基づく都市づくりと、地域拠点（旧市町）の連携による都市づくりを目指します。

“旧市町間の強い絆での結び付きをイメージします。”

(3)まちづくりの基本方向

1) 新市まちづくりの体系図

【まちづくりの基本理念】

「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」

“霧島山系から錦江湾の鼓動が時空を超え、躍動する新都市”

【新市の将来像】

人と自然が輝き、人が^{ひら}拓く、多機能都市の創造

【将来像を実現する7つの柱】

新市の将来像を実現するために、次の7つ（7市町、7分野）のキーワード（躍、癒、夢、支、交、協、絆）がふれあう都市づくりを将来像の柱として設定し、各分野別の振興方向として示しています。

躍

①「活力ある都市づくり」(社会基盤)
快適で魅力的な都市機能の充実と安全で活力ある都市づくり

癒

②「自然にやさしい都市づくり」(生活環境)
自然と共生し、誰もが安心して住める都市づくり

夢

③「育み磨きあう都市づくり」(教育文化)
育まれてきた教育文化の継承と生涯学習、青少年の健全育成を推進する都市づくり

支

④「たすけあい支えあう都市づくり」(保健福祉)
すべての人が安心して暮らし、共にたすけあい支えあう都市づくり

交

⑤「産業ふれあいの都市づくり」(産業経済)
多種多様な産業が調和した産業ふれあいの都市づくり

協

⑥「住民参画の都市づくり」(コミュニティ)
人権を尊重しあい、住民が主体的に参画し、行政と協働する都市づくり

絆

⑦「健全な行政組織の都市づくり」(行財政)
健全で自立した行財政運営と地域拠点の連携による都市づくり

【地域別振興方向】

- ① 自然交流ゾーン
- ② 田園文化交流ゾーン
- ③ 錦江湾多機能都市交流ゾーン

- 広域連携軸
- 地域連携軸



【まちづくりの基本理念】

- 1 活力ある都市づくり(社会基盤の整備)
(1)地域特性を活かした自然と人にやさしく、災害に強い安全で快適な都市づくり (2)空港、港湾、高速道路、鉄道を活かした都市づくり (3)情報ネットワークを活かした都市づくり
- 2 自然にやさしい都市づくり(生活環境の整備)
(1)安心して暮らせる都市づくり (2)海・山・川が一体となった自然豊かな都市づくり (3)自然と共生した定住環境の都市づくり
- 3 育み磨きあう都市づくり(教育文化の整備)
(1)地域に根ざした特色ある学校教育を推進する都市づくり (2)伝統文化の継承と新しい文化の創造を図る都市づくり (3)人づくりとそのため環境づくり、息の長い生涯学習を推進する都市づくり
- 4 たすけあい支えあう都市づくり(保健福祉の充実)
(1)すべての人が安心していきいきと暮らせる都市づくり (2)生涯にわたり自主的に健康管理ができる都市づくり (3)安心して子供を産み、心豊かに子育てができる都市づくり
- 5 産業ふれあいの都市づくり(産業経済の振興)
(1)産業間の交流、ふれあいによる商工業の振興を図る都市づくり (2)生産者と消費者とのふれあいによる農林水産業の振興を図る都市づくり (3)観光客と地域住民とのふれあいによる観光の振興を図る都市づくり
- 6 住民参画の都市づくり(コミュニティの推進)
(1)住民・自治会組織・企業・ボランティア団体・NPO(民間非営利団体)などと行政との協働による都市づくり (2)人材育成・人材発掘の促進及び国際交流を積極的に推進する都市づくり (3)お互いが人権を尊重しあう思いやりのある都市づくり
- 7 健全な行財政組織の都市づくり(行財政の効率化等)
(1)健全な行財政運営を進める都市づくり (2)開かれた行政を推進する都市づくり (3)質の高い行政サービスの提供を推進する都市づくり



【新市の一体化プロジェクト】

- 1「多彩な地域性」向上プロジェクト
- 2「地域の交流・連携」推進プロジェクト
- 3「多機能都市」創造プロジェクト

2)分野別振興方向

1)社会基盤分野

○ まちづくりの様々な分野の基礎となる社会基盤分野では、海・山・川といった資源を活用しつつ地域拠点の整備はもとより、空港、港湾の周辺整備と、これらの拠点と連携する道路網の整備による交通ネットワークの形成を進めます。また、生活に密着した情報ネットワークの整備を推進し、活力ある災害に強い安全で快適な都市づくりを目指します。

(基本目標)

① 地域特性を活かした自然と人にやさしく、災害に強い安全で快適な都市づくり

・新市は、県央地域の特性を活かした市街地活性化のための整備や各ゾーン及び地域拠点の整備充実を図るとともに、自然と人にやさしく、災害に強い安全で快適な都市づくりを推進します。

② 空港、港湾、高速道路、鉄道を活かした都市づくり

・新市では、鉄道、バス等公共交通機関の充実と、空港、高速道路、港湾の施設やその周辺整備促進及びこれらを結ぶ道路網の整備や生活道路網の整備充実を推進すると同時に、産業・観光の振興に活用できる交通体系網の整備を推進します。

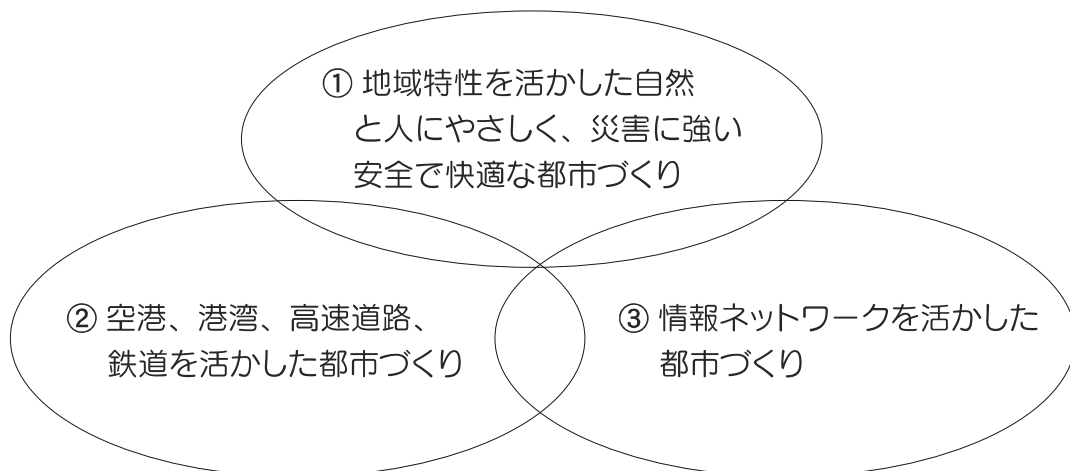
③ 情報ネットワークを活かした都市づくり

・新市は、ケーブルテレビや地域イントラネット等の高速通信網の整備を促進し、双方向コミュニケーション型のまちづくりを目指します。

※ 「ケーブルテレビ」とは、一般テレビ放送のほかBS、CS放送や自局で制作した番組を放送センターから光ケーブルや同軸ケーブルを通じて加入者宅へ放送するシステムで、地域の行政情報や議会中継、話題などを放送する地域に密着したメディアです。また、高度情報化社会における地域の情報通信基盤として、防災、健康・福祉、保健医療、文化教育といった分野での利用が期待されています。

※ 「地域イントラネット」とは、学校、図書館、公民館、役所などの公共施設を光ファイバー等による高速インターネットで接続し、住民に対して行政や教育、福祉、医療、防災などのサービスをより高度化して提供する地域内のネットワークのことです。

<社会基盤分野の基本目標>



2)生活環境分野

- 近年の地域社会では、災害や犯罪等が多発し、また、自然環境の悪化も進んでいます。その対策として最も重要な視点は、住民が安心して暮らせる都市をつくることです。そこで、住民と連携した防災・防犯体制の強化、消費生活の安定等を図りながら、地域の海・山・川が一体となった自然豊かな都市づくりや自然にやさしい都市づくりを目指します。

(基本目標)

① 安心して暮らせる都市づくり

・新市のあらたな地域防災計画を基本として、消防施設の整備と防災・防犯体制を確立します。また、住民の連携、協働による、住民パトロール組織や自主防災組織の結成などにより、安心して暮らせる都市づくりを目指すとともに、自治体に係る施設、建物の安全確保及び子どもの安全対策を推進します。

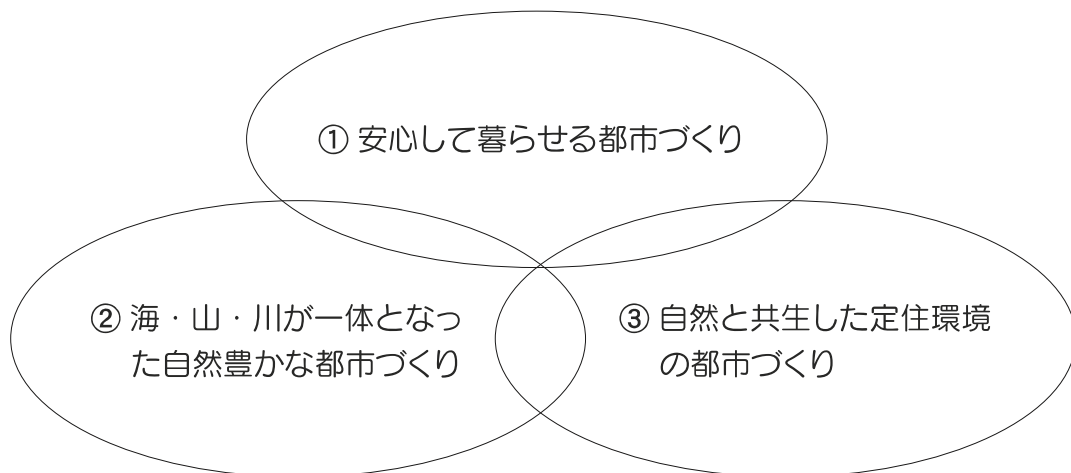
② 海・山・川が一体となった自然豊かな都市づくり

・新市は、海・山・川が一体となった自然豊かな都市づくりのために、自然の保全と自然を活かした施設の整備、下水道整備及び浄化槽整備による水質浄化の推進、住民への分別意識啓発による資源リサイクルの推進、廃棄物処理などの施策の推進と企業・住民・行政が協働する地球温暖化防止運動を推進します。

③ 自然と共生した定住環境の都市づくり

・自然と共生したライフスタイルが実現できる、ゆとりのある住宅、宅地等の整備を進め、定住促進を図ります。

<生活環境分野の基本目標>



3)教育文化分野

- 新市の担い手をつくる教育文化分野では、幼児教育環境の充実、青少年の健全育成や地域に根ざした特色ある学校教育活動を推進し、地域の伝統文化を育みながら、新しい文化を創造していく必要があります。そのためには、情報の共有化や人づくりとその環境づくりのために生涯学習等を支援する体制を充実させ、県央地域独自の特色ある教育文化活動を推進します。

(基本目標)

① 地域に根ざした特色ある学校教育を推進する都市づくり

・新市の学校教育は、新市で策定する教育基本構想のもと、学校選択の拡充や多様な人材の登用等による特色ある学校づくりを進めるとともに、学校施設整備をし、すべての児童・生徒に均等な教育機会を提供します。

② 伝統文化の継承と新しい文化の創造を図る都市づくり

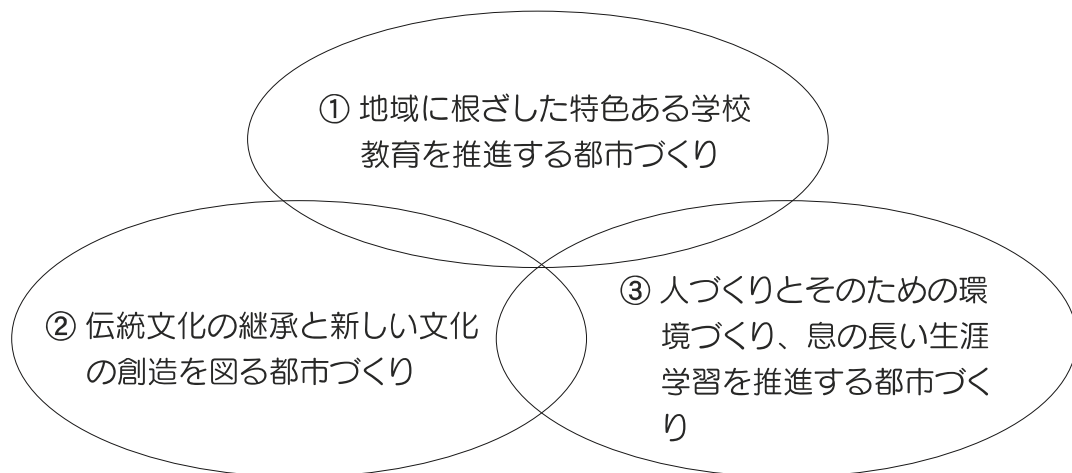
・新市の文化活動は、伝統文化の継承と新しい文化の創造を図る都市づくりを目標に、歴史的文化遺産の保護と活用をはじめ、地域の中で新しい文化を育てることや、公共的施設の統合整備計画に基づき、既存施設の利活用を視野に入れた施設の整備を目指します。

③ 人づくりとそのための環境づくり、息の長い生涯学習を推進する都市づくり

・新市では、地域活動、ボランティア精神の「かん養」、姉妹都市交流等による人づくりをはじめ、すべての世代が参加できる息の長い生涯学習の場づくりの確保に努めます。

※ 「かん養」とは、徐々になじませて養い育てること。

<教育文化分野の基本目標>



4) 保健福祉分野

- すべての人が安心して暮らせる都市こそ、住みよい都市であると考え、そのため、住民自ら「心と体の健康づくり」に努め、「あたたかな家庭や地域の中で共に支えあい、いきいきと暮らせる」都市づくりを目指します。

(基本目標)

① すべての人が安心していきいきと暮らせる都市づくり

・新市の保健福祉は、障害者・高齢者・児童福祉の充実、地域福祉推進体制の整備、相談体制の確立、救急診療体制の充実など、すべての人が安心していきいきと暮らせる都市づくりを推進します。

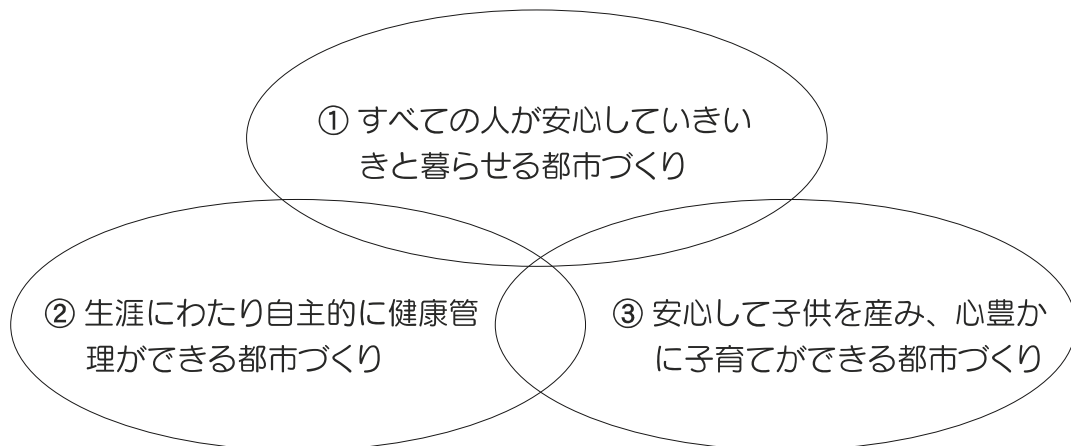
② 生涯にわたり自主的に健康管理ができる都市づくり

・新市では、生涯にわたり自主的に健康管理ができる都市づくりを進めるために、健康教育の充実や保健・福祉・医療・介護が一体となった包括ケアによる健康づくりを推進します。

③ 安心して子供を産み、心豊かに子育てができる都市づくり

・新市では、あたたかな家庭づくり、共に支えあう地域づくりや子育て支援等の充実を図り、安心して子供を産み育て、子供たちが心身ともに健やかに成長できる環境づくりを推進します。

<保健福祉分野の基本目標>



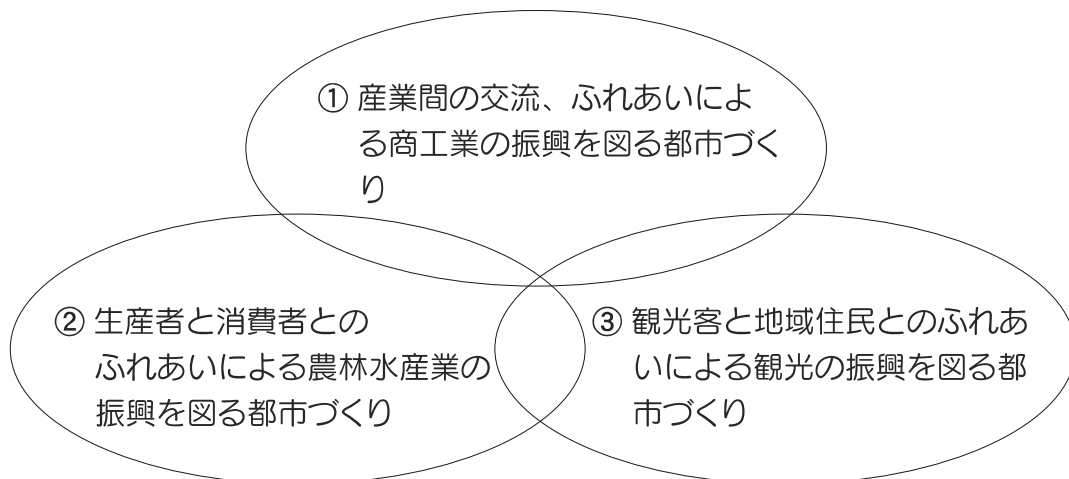
5) 産業経済分野

- 産業経済分野では、先人との「ふれあい」、自然との「ふれあい」、人との「ふれあい」を大きなテーマとして、「働ける・食べられる・遊べる都市づくり＝住みよい都市」を築くために、商工業・農林水産業・観光の各分野など地域内の均衡ある産業振興と産業間の連携によるふれあいの都市づくりを目指します。

(基本目標)

- ① 産業間の交流、ふれあいによる商工業の振興を図る都市づくり
・新市の商工業部門は、若者にも魅力的な商業の振興、企業誘致と産業・学術・研究機関との連携強化や新エネルギーの開発・活用など、躍進するこの地域が南九州の産業経済の拠点になるよう、産業間の交流、ふれあいによる商工業の振興を図る都市づくりを進めます。
- ② 生産者と消費者とのふれあいによる農林水産業の振興を図る都市づくり
・新市の農林水産業部門は、安全で安心な農林水産業の推進のために生産履歴の明確化、地産地消の推進、ブランドの確立と対外的なPRにより、生産者と消費者とのふれあいを大切にする農林水産業の振興を推進します。
- ③ 観光客と地域住民とのふれあいによる観光の振興を図る都市づくり
・新市の観光部門は、空港を拠点として、神話や歴史、温泉を含めた地域資源の活用や対外的なPR強化に努め、体験型・滞在型・癒し型観光を推進するために、観光客と地域住民とのふれあいによる観光の振興を図ります。

<産業経済分野の基本目標>



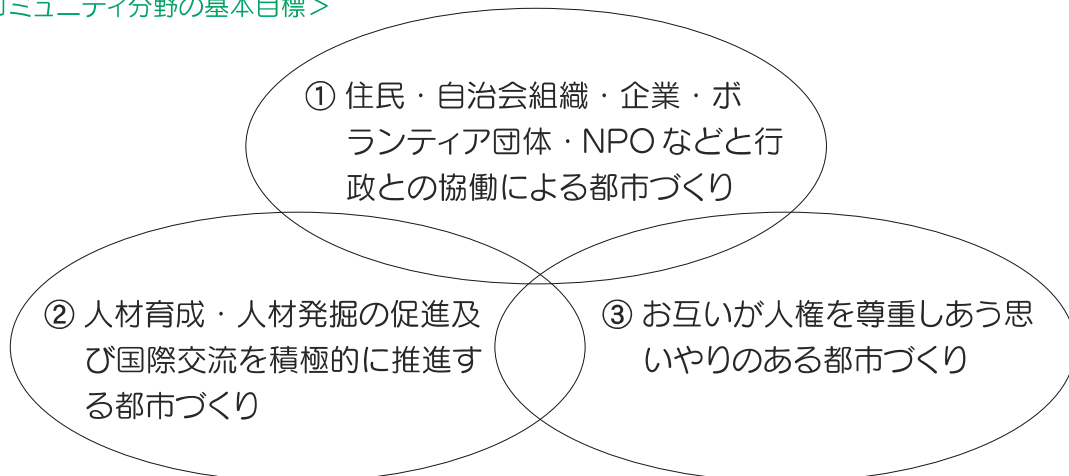
6) コミュニティ分野

○ 地方分権改革が目指すべき分権社会においては、地域における自己決定と自己責任が重要となる観点から、住民と行政とのかかわりがこれまで以上に重視されることとなります。コミュニティ分野では、現在ある公共的施設を活用しながら、各地域の特徴を活かした地域づくり、自治会組織等(コミュニティ)とのパートナーシップの確立のほか地域の声が反映される仕組みづくりを推進します。また、ボランティア団体やNPO(民間非営利団体)などの様々な活動が盛んな都市づくりを目指します。さらに、お互いが人権を尊重しあい、思いやりのある人にやさしいまちづくりを目指すとともに、男女が対等なパートナーとしてあらゆる分野に参画できる男女共同参画社会の形成を促進します。

(基本目標)

- ① 住民・自治会組織・企業・ボランティア団体・NPO(民間非営利団体)などと行政との協働による都市づくり
・新市は、住民と行政がパートナーシップの確立を図り、情報の共有化を行いながら、住民や自治会組織、ボランティア団体、NPOその他民間セクター(民間企業等の営利部門)とも協働し、相互に連携して都市づくりを推進します。
- ② 人材育成・人材発掘の促進及び国際交流を積極的に推進する都市づくり
・新市は、都市づくりの専門家や高齢者の技術と豊富な経験等を活用するとともに、広く都市づくりに住民参画の場を開くなどし、国際化に柔軟に対応できる人材育成や地域のリーダーとなる人材発掘を促進します。また、鹿児島空港が立地する特性を活かして、多種多様な交流活動を推進し、グローバルな時代にふさわしい新たな国際交流を推進します。
- ③ お互いが人権を尊重しあう思いやりのある都市づくり
・すべての人が人間として尊重される、人権の確立した社会づくりを目指します。また、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分発揮し、社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に参画することができる男女共同参画社会の形成を促進します。

<コミュニティ分野の基本目標>



7) 行財政分野

○ 地方分権一括法の施行により、国及び県から市町村に権限移譲が推進されつつあり、自治体の自己決定、自己責任の原則のもとに、効率的な行政運営を図ることが求められています。新市においては、地方分権に対応するために、健全で自立した行財政運営、開かれた行政の推進、質の高い行政サービスの提供を図る都市づくりを目指します。

(基本目標)

① 健全な行財政運営を進める都市づくり

・新市は、計画の実効性を向上させるため、行政評価制度等を導入するとともに、自主財源の確保に努め、限られた財源の重点的・効率的配分を図ります。また、民間と行政の連携・協力を図り、それぞれ適切な役割分担をしながら、都市づくりへの民間活用を図り、効率的で活力のある行政運営を推進します。

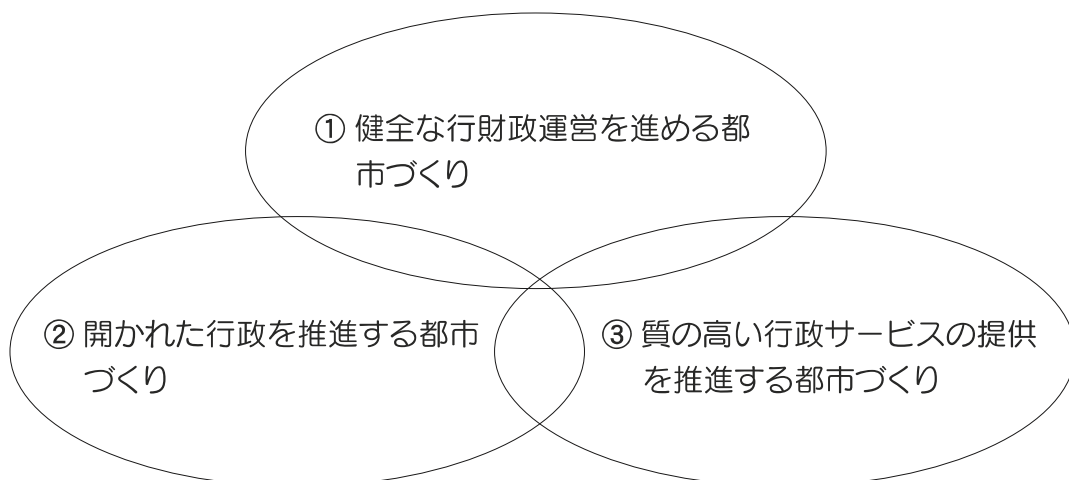
② 開かれた行政を推進する都市づくり

・新市は、情報公開制度の円滑な運用と、行政の広報手段(広報紙、ホームページ、ケーブルテレビ等)の積極的な活用を図り、市民への情報提供を行うとともに、透明で開かれた行政運営を推進します。

③ 質の高い行政サービスの提供を推進する都市づくり

・新市は、各種行政事務や行政情報の電算化・ネットワーク化を図り、適切なサービスを住民に提供できるように電子自治体を推進するとともに、住民とのふれあいを大切に、住民の視点に立った成果指向型の行政運営など新市にふさわしい質の高い行政サービスの提供を推進します。

< 行財政分野の基本目標 >



3) 地域別振興方向

新市のまちづくりゾーンの方向性

新市の自然、産業、教育文化及び土地利用等の特性を活かした調和ある発展をめざすため、これまでの地域の歩みを尊重しつつ、新市を大きく、3つのゾーンに分け、次のように振興を図ります。

① 自然交流ゾーン

「豊かな自然や美しい景観を保全・継承し、住む人、訪れる人が癒されるゾーンの形成」

・霧島山系の国立公園と1市6町の山麓一帯を自然交流ゾーンとして位置づけ、豊かな自然や美しい景観を保全・継承し、希少価値のある動植物の保護に努めるとともに、森林については、水源かん養としての大切な機能も活かしながら、これらの魅力を住む人だけでなく、訪れる人々までが享受できる、心休まる癒しのゾーン形成を図ります。また、温泉や雄大な自然を十分に活用して、霧島山麓から錦江湾・桜島が一望できる大パノラマ地帯での観光保養的要素やアウトドア・レクリエーション的要素、滞在型リゾート的要素を包括するゾーンとして活用を図ります。

② 田園文化交流ゾーン

「自然環境や文化と共生する交流・体験地域として農業と観光のふれあいのある田園ゾーンの形成」

・空港周辺を人とももの交流拠点として、中山間地域一帯を田園文化交流ゾーンと位置づけ、農業と観光の振興、歴史・文化の振興を図りながら、実り豊かな自然と文化が共生する交流・体験地域として整備を図ります。また、田園地域の魅力を維持しながら、日常生活圏としての利便性を確保し、新市中心部のベッドタウンとしての整備に努め、生活と産業がふれあい、調和のとれた交流地域として整備を図ります。

③ 錦江湾多機能都市交流ゾーン

「都市機能を充実し、にぎわいと躍動感あふれる市街地とマリンゾーンの形成」

・人口増加が見込まれる国分平野一帯を錦江湾多機能都市交流ゾーンと位置づけ、都市機能の充実を図るとともに、居住環境やスポーツ・レクリエーション環境等の整備を進め、にぎわいと躍動感あふれる交流拠点都市づくりを図ります。また、錦江湾沿い一帯は、静かで穏やかな内海としての特徴を活かしたマリンゾーンとして、整備を図るとともに、港湾事業や漁業等の振興を促進します。

新市のまちづくりの軸の方向性

新市地域内外の人やものの活発な交流を促進するために、2つの連携軸を設定します。

●広域連携軸

・空港、九州縦貫自動車道、東九州自動車道を中心とした軸を広域連携軸と位置づけ、九州南部と九州北部の人・ものの交流を促進し、新市の生活の向上や産業の振興を図る重要な基軸とし、周辺地域である鹿児島市や熊本、宮崎といった地域はもとより、各地との連携を強める軸とします。また、各ゾーン間の連携を強化するために、軸を中心に民間投資を含めた施設の整備を推進します。

●地域連携軸

・旧市町の市役所や町役場を中心とした地区を地域拠点とし、各地域間の交流・連携を推進することにより、新市としての機能強化を図っていく軸として、地域連携軸を設定します。また、各地域拠点における各種施設や行政サービスを向上するため、軸を基本に各種施設の適正な配置を図ります。

4)土地利用構想図

